

検討事項の確認

- 整備の方針
- 今後の検討課題とスケジュール
- 基本コンセプトと必要な機能
- 第2回検討会の主な指摘と対応
- 検討項目と検討スケジュール

札幌駅交通ターミナルの整備の方針

ポテンシャル

- 北海道新幹線の札幌延伸 [2030年度末]
- 冬季五輪の招致 [2030年]
- 都心アクセス道路(創成川通の機能強化)の検討



提供: JR北海道

課題

- 都市間・都市内バス乗降場の分散
- 国道5号を含む面的な交通混雑
- 災害時の交通と受入空間の確保



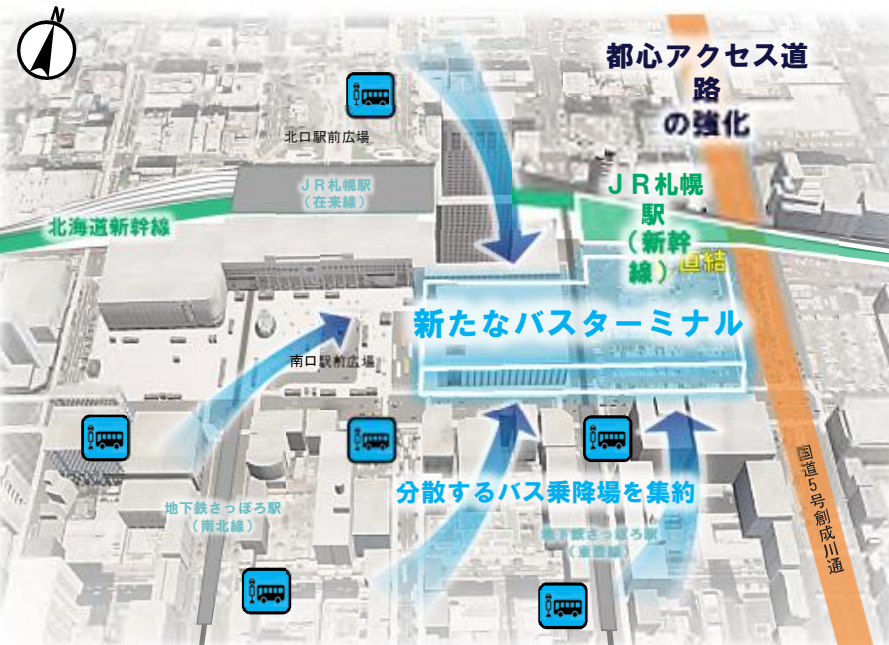
北海道胆振東部地震時の状況
(札幌駅地下歩行空間)

世界とのゲートウェイ・札幌

『北海道新幹線と高速バスが直結するバスターミナルの整備』

～全道に効果を波及させ、食と観光で全国に貢献する「生産空間」を支えます～

高速道路と連携した全道各地へインバウンド観光等の新たな人流を創出



① 観光機能の強化

- ・インバウンドを含む観光案内所の設置
- ・観光MaaSの導入

② 防災機能の強化

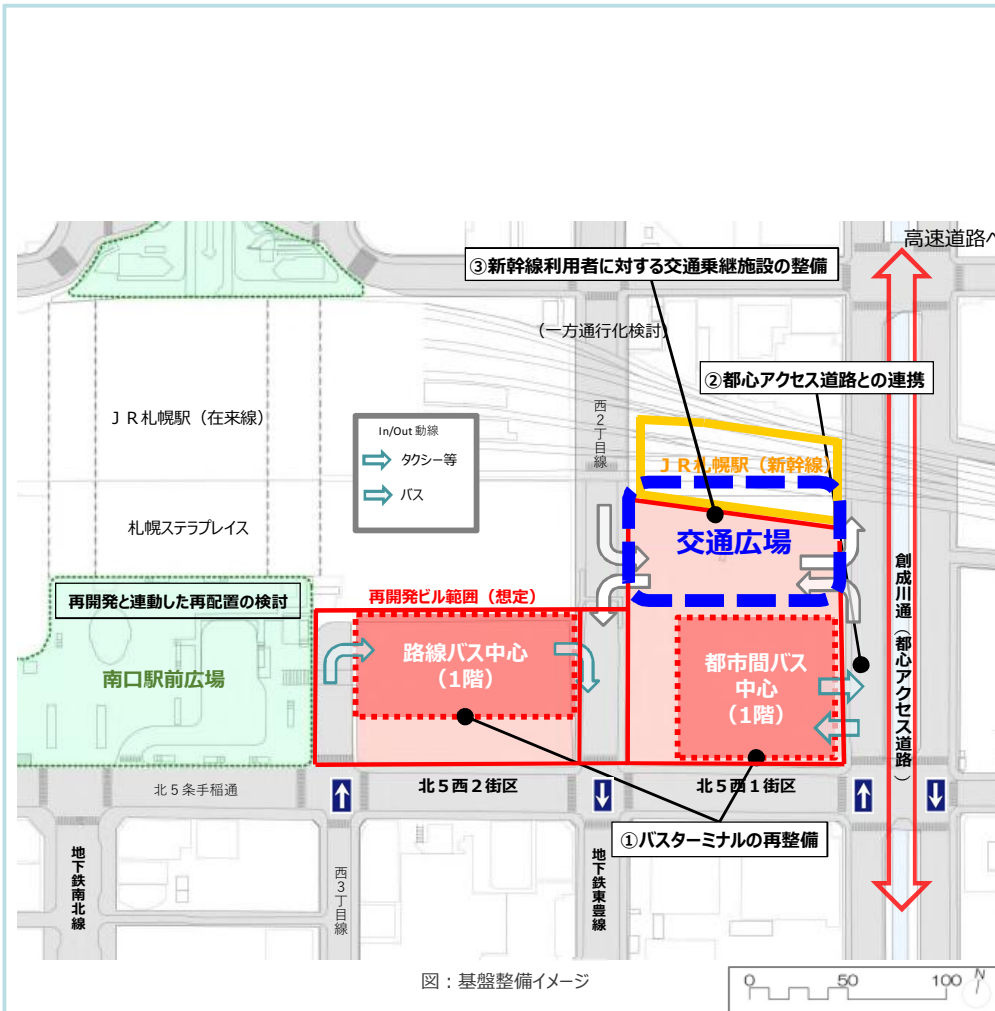
- ・帰宅困難者等の受入空間
- ・情報提供施設の整備

③ 多様なモビリティとの連携

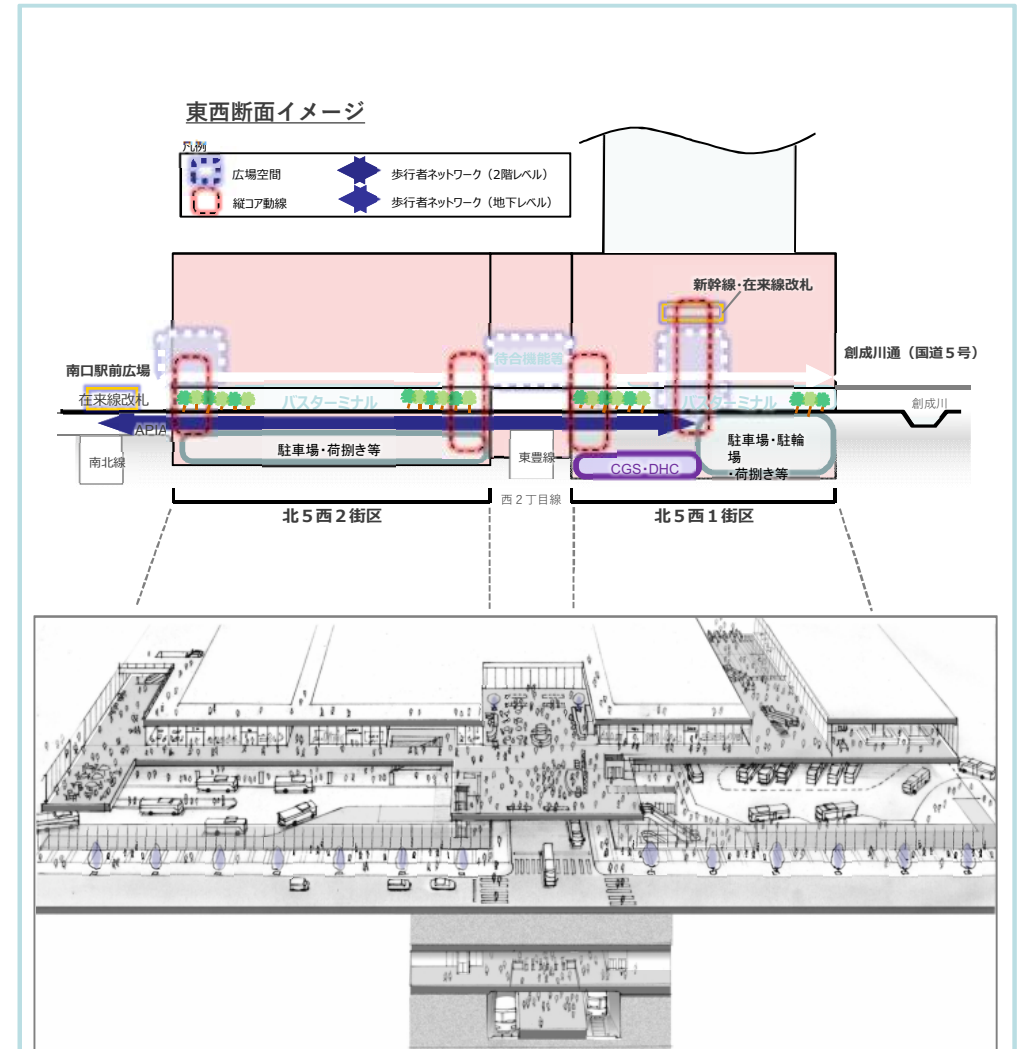
- ・シェアサイクル
- ・新たなモビリティ

(参考) 札幌駅交通ターミナルの施設配置イメージ

平面



東西断面



※「札幌駅交流拠点北5西1・西2地区再開発基本構想」（R1.10.31_札幌市）、「札幌駅交流拠点北5西1・西2地区市街地再開発準備組合設立のお知らせ」（R1.11.11_札幌市・JR北海道）より作成
 ※「新幹線札幌駅について」（R2.1.16_JR北海道）の計画変更案（新幹線改札口、交通広場）を反映

整備の方向性・コンセプト

1. 北海道新幹線と高速バスが直結するバスターミナルの整備

・北海道新幹線札幌駅と直結するとともに、駅周辺に分散する都市間・都市内バス乗降場等の集約や、都心アクセス道路との連携強化により、モーダルコネク機能の強化を図ります。これにより、全道に効果を波及させ、食と観光で全国に貢献する「生産空間」を支えます。

2. 新たなバスターミナルは、あわせて、以下の機能強化についても検討を進めます**(1) 観光機能の強化**

・わかりやすい案内やシームレスな移動を実現し、利用者の利便性・回遊性を向上させ、ICTを活用した観光MaaSも導入しながら、インバウンドを含めた観光機能の強化を図ります。

(2) 防災機能の強化

・帰宅困難者の受け入れ空間や災害時の情報提供機能を確保するなど、防災機能の強化を図ります。

(3) 多様なモビリティとの連携

・シェアサイクルや新たなモビリティ等、多様な交通と連携し、移動利便性や回遊性向上を図ります。

3. 官民連携による計画の具体化

・本整備方針に基づき、民間事業者等の知見を広く取り入れながら、官民連携で計画の具体化を図ります。

《今後の検討課題》

① 施設計画の検討 【第2回(論点整理)、今回(基本計画)、今後(詳細検討)】

札幌駅周辺の価値を高める道都の「顔」としてのトータルデザイン
北海道新幹線札幌延伸以降の時代の変化にも柔軟に対応する構造と配置計画

② 機能・運営の検討 【第2回(論点整理)、今回(基本計画)、今後(詳細検討)】

交通結節点・観光・防災の各機能の強化
多様なモビリティとの連携
運営・維持管理の委託を前提とした「稼げる」空間の実現

③ 事業制度の検討 【今後検討】

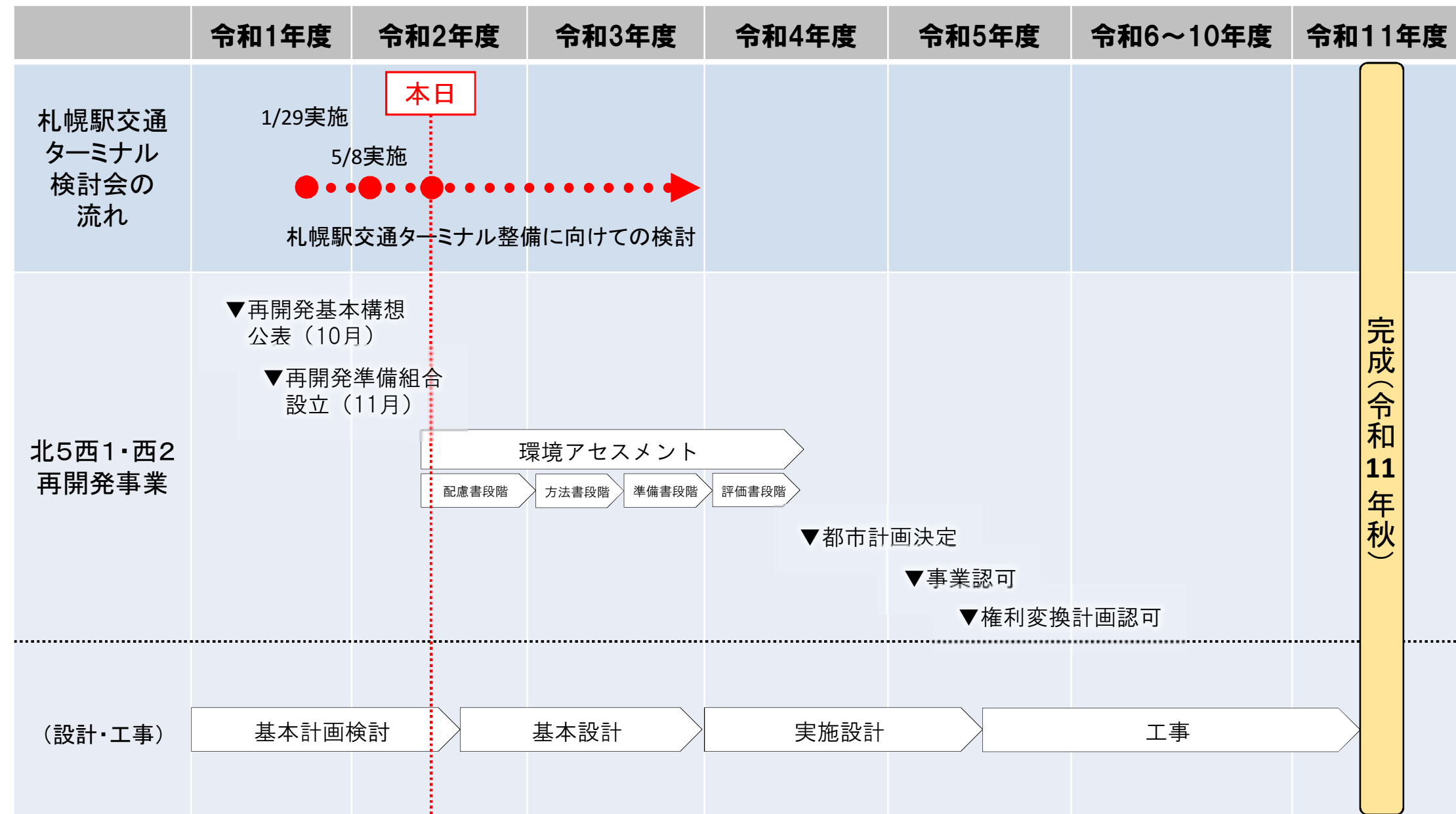
都市計画法や道路法をはじめとした法令上の位置づけの整理
将来的な運営・維持管理を念頭に収益を考慮した事業スキーム

④ 施工計画の検討 【今後検討】

北海道新幹線札幌延伸や招致活動予定の札幌冬季五輪等を見据えた施工スケジュール
施工期間中のバス停配置等、札幌駅周辺への影響を考慮した施工ステップ

今後の検討課題とスケジュール

《今後のスケジュール》



基本コンセプトと必要な機能

目指す姿 **世界へつながる“さっぽろ”の新たな顔づくり**
道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成と高次都市機能・交通結節機能の強化

4つの基本コンセプト

- 街並み形成**
道都札幌の玄関口にふさわしい新たなシンボル空間の創出
- 基盤整備**
多様な交流を支えにぎわいを形成する交通結節点機能の充実とバリアフリー化の推進
- 機能集積**
北海道、札幌の国際競争力をけん引する都市機能の集積
- 環境配慮・防災**
環境にやさしく災害に強い最先端の都心モデルの実現

地域の課題と将来動向

- バス乗降場の分散
- 冬期の厳しいバス待ち環境
- 駅周辺地域の交通混雑
- タクシーの利便性低下
- 災害時の交通と受入空間の確保
- 2030年度末北海道新幹線の札幌延伸
- 都心アクセス道路の整備
- 2030年冬季オリンピック招致

整備方針

世界とのゲートウェイ・札幌
『北海道新幹線と高速バスが直結するバスターミナルの整備』
～全道に効果を波及させ、食と観光で全国に貢献する「生産空間」を支える～

北海道新幹線と高速バスが直結するバスターミナルの整備

- 多様なモビリティとの連携
- 観光機能の強化
- 防災機能の強化

波及効果：高速道路と連携した全道各地へインバウンド観光等の新たな人流を創出

当検討会では事業計画とりまとめに向けて、整備方針を具現化するために必要な『要素の具体化』を図る

具体化する要素

- 魅力的な駅前空間の創出
- 交通拠点形成とモビリティネットワーク
- 情報空間との連携やイノベーションの受容
- 持続可能性とまちへの貢献
- 駅前防災拠点 **6**

第2回検討会の主な指摘と対応

第2回検討会の主な指摘と対応

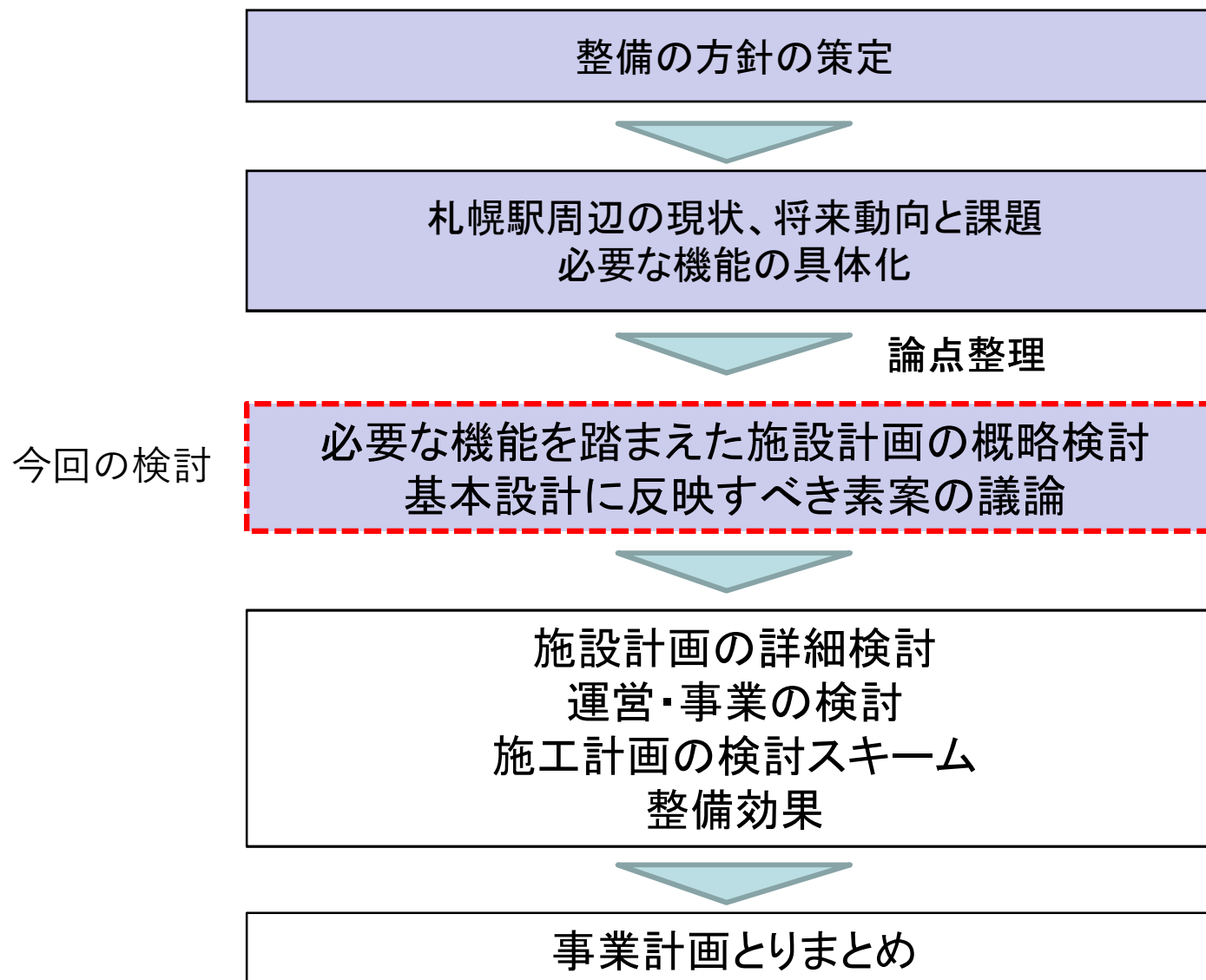
議題	委員からの主な意見	対応 第3回検討会資料該当箇所	資料
(1) 札幌駅周辺の現状・将来動向と課題	・ 国際的な都市間競争力強化、直接的な交通利用者の利便性向上のみならず、都市全体や全道への波及効果を見据えて検討することが重要。	・ 世界のゲートウェイ・札幌における都市全体や全道への波及効果を見据えるため、北海道・札幌市の拠点としての役割を把握	資料 2 P1 資料 2 P2
	・ 新幹線延伸、オリパラ招致、周辺の再開発を見据え、札幌駅周辺全体として各交通モードの結節性を検討していくことが重要。	・ 札幌駅周辺の将来動向を見据えた検討を行うため、各交通モードの乗換動線における現状の課題を把握	資料 2 P3
	・ 札幌駅周辺の再開発が進む中で、一般車両による混雑に対応するため、面的なマネジメントを検討することが重要。	・ 札幌駅周辺の再開発を見据えた検討を行うため、現状の交通課題・面的なマネジメントの必要性を把握	資料 2 P4
(2) 必要な機能の具体化	・ バスターミナルへの流出入について、創成川通とバスターミナルの連携が重要で今後検討を進めるべき	・ 国道 5 号創成川通との連携のために有効な接続方法を検討	資料 3 P14
	・ ダイヤが乱れた場合の影響や観光バス・貸切バスについても今後検討を進めるべき。	・ 将来需要を考慮し定期観光も含めたバスターミナルの規模決定の考え方を整理 ・ ダイヤが乱れた場合の影響や貸切バスへの対応については、バスターミナルの運用面や周辺地域での対応も含めた考え方を整理	資料編①P1
	・ オリパラ招致を見据え、円滑な歩行者動線やシームレスな交通体系の実現、バリアフリー、ユニバーサルデザインという観点で高い目標を掲げて今後検討を進めるべき。	・ オリンピック・パラリンピック招致を見据えたバリアフリー化の推進において、札幌駅の主要な交通機関の結節性の課題を把握 ・ シームレスな移動を促進する歩行者動線の設定方法を検討	資料 2 P3 資料 3 P20
	・ 将来の自動運転技術や情報インフラとの連動による情報提供なども視野に入れた検討が必要。	・ 将来の自動運転技術を前提とした多様なモビリティの活用を考え方を整理 ・ 情報インフラとの連動によるMaaSを活用した情報提供の考え方を整理	資料 3 P15 資料 3 P18
	・ 札幌駅周辺の総合的なサイン計画が重要で、全体で統一感のある分かりやすい案内となるよう、ICTの活用なども含めて関係機関で今後検討を進めるべき。	・ 札幌駅周辺地域の関係機関と連携した総合的なサイン計画の考え方を整理	資料 3 P5
	・ 避難空間としての活用やバス輸送といった災害時の総合的な運用計画を検討すべき。	・ 避難空間としての活用も含めた災害時の必要な機能を検討 ・ 代替のバス輸送に必要な連携体制等の総合的な運用計画の考え方を整理	資料 3 P24 資料 3 P25
	・ 創成川のみどりや水に配慮するとともに、東西方向の一体感の醸成、歩行者をはじめとした多様な移動モードに対し、創成川通地上部や上空（デッキレベル）の利用に向けた検討が必要。	・ 創成川公園延伸等の創成川のみどりや水を有効に活用する考え方を整理・創成川の東西方向の一体感の醸成と歩行者を始めとした多様な移動モードを支援する創成川通上空活用の考え方を整理	資料 3 P6 資料 3 P14

第2回検討会の主な指摘と対応

第2回検討会の主な指摘と対応

議題	委員からの主な意見	対応 第3回検討会資料該当箇所	資料
(3) その他 (今後の進め方、全般について等)	・バスターミナルの施設計画、事業期間や施工計画について、社会情勢の変化を踏まえ再開発や新幹線駅などの関係機関と調整しながら進めていくことが重要。	・今後、関係機関と協議しながら施工計画について検討（次回以降）	-
	・利用者目線での景観、北海道を実感できる空間という点においても配慮し検討をしていくことが重要。	・北海道らしさを利用者目線で実感するための空間についての考え方を整理	資料3 P2 資料3 P3
	・ディスタンスという視点も重要。	・札幌駅周辺の総合的なサイン計画の必要性を把握 ・コロナ禍の新しい生活様式の実践例としてシェアサイクルの実態と今後の方向性を把握	資料3 P5 資料3 P16
	・新たなモビリティについて、他都市事例を参考に将来のイメージを関係者間で共有することや受容空間を確保しておくことが重要。	・札幌駅周辺も含めた多様なモビリティの受容空間の確保と形成するネットワークの将来イメージを検討	資料3 P15 資料3 P17
	・観光案内や災害時の情報提供機能など総合的なインフォメーション機能について、関係機関と連携し検討していくことが重要	・観光案内と災害時の情報機能などの総合的なインフォメーション機能の考え方を整理	資料3 P23
	・ターミナルの規模・待合空間の機能について、再開発と連携して進めていくことが重要。	・ターミナルの規模決定の考え方を検討 ・待合空間に必要な機能の考え方を検討	資料3 P12 資料編① P 1 資料3 P22,P23

検討フロー



具体化する要素と検討項目

具体化する要素と必要な検討項目

具体化する要素

魅力的な
駅前空間の創出

交通拠点形成と
モビリティネットワーク

情報空間との連携や
イノベーションの受容

持続可能性と
まちへの貢献

駅前防災拠点

1 魅力的な
駅前空間の創出

1-1 札幌駅周辺地区
のまちづくり
計画

1-2 道都札幌の顔の
イメージ

1-3 道都札幌の顔と
しての情報発信
のあり方

1-4 環境首都・札幌

1) 緑のネット
ワーク

2) エネルギー
ネットワーク

2 交通拠点形成と
モビリティネットワーク

2-1 札幌駅周辺の交通円滑化
の考え方

2-2 再開発とあわせた交通マ
ネジメント

2-3 バスターミナルの集約

2-4 バスの経路の検討

2-5 国道5号創成川通
との接続

3 情報空間との連携やイ
ノベーションの受容

3-1 多様なモビリティ
の活用イメージ

3-2 既存のモビリティ
の活用

3-3 モビリティ
ネットワーク

3-4 MaaSによる円滑な
乗換えの実現

4 持続可能性と
まちへの貢献

4-1 駅周辺の回遊
性の考え方

4-2 シームレスな
移動を実現

4-3 ユニバーサル
デザインに対
応した乗換え
動線の設定

4-4 待合空間
の検討

5 駅前防災拠点

5-1 帰宅困難者
受入れ空間と
情報発信
機能・手法の
検討

5-2 JRや航空機の
代替となるバス
輸送の検討

主な意見を踏まえた
具体化する要素に
必要な検討項目